シルバー連合会

ふくおか

第29号

【平成22年８月発行】

目次

●平成21年度　第２回定期総会
役職員研修会報告……………… 1
●平成22年度　第１回定期総会
役職員研修会報告……………… 2
●平成21年度　事業報告……… 3
●平成22年度　主要事業計画のあらまし… 3
●平成22年度　全シ協定期総会報告…… 4
●平成22年度　安全就業促進大会…… 5
●平成22年度　安全・適正就業対策実施計画…… 6
●平成22年度　シニアワークプログラム技能・介護講習実施計画…… 7
●平成22年度　シニア就業支援プログラム事業のご案内…… 8
●センターだより（嘉麻・桂川広域ＳＣ）…… 9
●データで見る平成21年度事業実績…… 10
●一言コーナー、編集後記、今号の表紙…… 11

筑後川花火大会（久留米市）

社団法人　福岡県シルバー人材センター連合会

生田 連合会会長

小山講師

江藤議長

平成21年度 第２回定期総会

役職員研修会開催

３月19日㈮ 博多都ホテル

平成22年３月19日㈮午後１時30分から福岡市の「博多都ホテル」において、平成21年度第２回定期総会を開催しました。

総会は、生田征生連合会会長のあいさつに始まり、続いて、来賓の福岡労働局の鈴木徹職業安定部長と福岡県生活労働部の松永大四郎労働局長（代理出席：新雇用開発課 多田眞哉課長補佐）から祝辞をいただきました。

総会の議長は㈳福津市シルバー人材センターの江藤喜元理事長が選任され、議事が進められました。当日審議された案件は「平成21年度補正予算（案）」「平成22年度事業計画（案）」「平成22年度収支予算（案）」「社団法人福岡県シルバー人材センター連合会の公益社団法人への移行について（案）」の４件でした。いずれも可決承認されました。

定期総会終了後、役職員研修会を開催しました。

雇用・就労支援、各種企業研修講師として活動されている一般社団法人ＪＳ（Job Supporter）マネジメントネットワークの代表理事 小山千景氏を講師に迎え、『シルバー人材センター 新しい役割「〜らしさ・ならでは」の提唱』の演題で講演をいただきました。

講演内容は、高齢者の意識調査で示された〝元気高齢者〟が願う「いきがい」「社会参画」について、シルバー人材センターは「働く」ことを通じてその目的を果たす活動をしているが、就労人口の減少に伴い、今後もなお、さまざまな分野においてシニア世代の活躍が期待されているところである。今後会員層が広がるシルバー人材センターに求められるのは、個々人のキャリアを活かした活動を推進、ブラッシュアップする「支援型シニアリーダー」の育成が必要であること。「就活」「婚活」があるように、経験豊かで個性溢れるシニア世代には『還活』（＝還暦活動）というユニークな造語を用いられ「〝あなた〟らしさ、ならではのキャリアを活かす」ことが大切であることなど深い関心を持って拝聴いたしました。

赤司議長

西村 県労働局長

鈴木 職業安定部長

平成22年度 第１回定期総会

平成22年６月17日㈭午後１時00分から福岡市の「博多都ホテル」において、平成22年度第１回定期総会を開催しました。

総会は、生田征生連合会会長のあいさつに始まり、続いて、来賓代表として福岡労働局の鈴木徹職業安定部長と福岡県生活労働部の西村栄造労働局長から祝辞をいただきました。

連合会会長表彰の後、総会の議長に㈳久留米市シルバー人材センターの赤司睦廣理事長が選任され、議事が進められました。当日審議された案件は「定款の一部を改正する定款（案）」「平成21年度事業報告」「平成21年度決算報告及び監査報告」「平成22年度事業計画の一部変更（案）」「平成22年度収支補正予算（案）」「役員の選任（案）」の６件と、公益社団法人への移行に際し手続きが必要となる「定款の変更の案」「移行当初の役員（案）」「移行当初の代表理事の選任（案）」「連合会役員の報酬等及び費用に関する規程（案）」の４件、計10件でした。いずれも満場一致をもって可決承認されました。

なお、役員については、監事の辞任に伴い後任者が承認されました。

【監事】

平成22年６月24日

辞任	竹房　和美	社団法人筑前町シルバー人材センター　理事長
就任	清武　治美	社団法人筑前町シルバー人材センター　理事長

役職員研修会開催

６月17日㈭　博多都ホテル

定期総会終了後、役職員研修会を開催しました。

演題は「シルバー人材センターを取り巻く環境について」、講師には福岡労働局職業安定部職業対策課課長補佐平田盛男氏を迎え、講演をいただきました。

講演内容は、行政刷新会議「事業仕分け」の判断で、当初シルバー人材センターは厳しい評価となったが、高齢者である会員の負担等が配慮され、国庫補助金予算額は当初の１／３削減案から１／６程度の削減案となった。

このような事業評価が行われる現況において、シルバー人材センターは大原則である「臨時的・短期的・軽易な業務」について「請負・委任・派遣」契約の事業内容を理解し、法律に則って適正に運営しているか留意されたい。更に、注視すべきは「偽装請負」（労働者派遣契約を締結せず、業務請負と称して労働者派遣事業を行うこと。）であり、同一会員による長期就業やライン作業等の就業形態がないか留意することが肝要である。

シルバー人材センターは、高齢者の就労や雇用、社会参加をサポートする組織であることから、安全対策面では高齢者に危険・有害な仕事を提供しない、会員には公平に仕事を提供し、民業圧迫とならないよう市場への配慮（見積基準、相場の状況について調査を行い見直す）をしながら事業を行っていただきたい。

世の中は加速度が増して急激に変化しており、役職員に改めてコンプライアンス（法令遵守）が重要であることを切々と語られました。

連合会では、安全・適正就業の徹底、役職員の研修・指導等に関し、より一層重点的に取り組まなければならないと認識いたしました。

平田講師

平成21年度　事業報告

総括

平成21年11月に行われた行政刷新会議における事業仕分けにおいて、シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）の国庫補助金について3分の1縮減という評価がなされ、シルバー事業関係者は大きな衝撃を受けました。この評価結果に対し、当連合会では急きょ予算縮減の見直しを求め、福岡県下で要望活動を行い、28,200余人の署名を添えて、厚生労働大臣に要望書を提出しました。結果として、縮減額は6分の1程度に押さえられました。

福岡県下におけるシルバー事業の平成21年度実績は、前年度に比べ総体的に下降傾向にありますが、会員数については平成22年3月末において約28,300人と、対前年度比で570人余の増となっています。各シルバー人材センターの会員増に向けた取り組みの強化が反映されたと思われます。全国100万人会員を目指す『シルバー活性化計画』において、当県では38,000人を目標としますので更なる努力と、会員増に見合った仕事の提供や新たな就業先の開拓に力を注ぐ必要があります。

厚生労働省委託事業は2事業実施しました。シニアワークプログラム事業は、実施経費の削減に係わらず高い目標値が示されましたが、受講者数約97％、修了者数82・6％、また雇用就業率については59・6％の達成率となりました。一方、新規に取り組みましたシニア就業支援プログラム事業については、参加登録者数75・9％、ワークショップ等の参加率38・2％と低調な結果となりました。

安全・適正就業対策は、傷害事故は対前年度比で約12％減少したものの賠償事故は約11％の増加がみられ、安全な作業環境の確保が今後の課題です。

特定公益増進法人の寄附金は目標額の100万円を達成し、昨年度より532千円増の1,322千円となりました。この寄附金は、使途審査委員会の審議を受け、シルバー事業活動の貴重な財源として運用させていただきました。寄附者並びに寄附金の募集等についてご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成22年度　主要事業計画のあらまし

基本方針

急速に進む高齢化社会のなか、経済情勢は回復基調にあるとはいえ実感するに至らず、依然として厳しい状況下にあり、雇用失業率は5％台と社会的な問題となっています。今後の高齢者就業対策は「意欲と能力がある限り年齢に関わりなく働ける社会」の実現が究極の課題です。

当連合会は高齢者の多様なニーズに対応し、地域社会に貢献する団体として高齢者の生きがいと健康の維持等を国・県・市町村の支援・育成を受けながら、センター機能の特性を生かし、地域のニーズにマッチした事業の拡充に努め、ボランティア活動や様々な社会参加などセンターの役割への期待はさらに重要になると受け止め、高齢者が生きがいのある生活の実現に向けて、急激に変貌する時代の要請に応える体制の整備と積極的な事業推進を図ることとします。

また、センターの広角的な事業運営の推進と企画提案方式による事業の促進、シルバー派遣事業の拡充、安全・適正就業の確立等の課題について各センターとの連携を強化し取り組むこととします。

公益法人新制度への対応について、当連合会は具体的に行動をおこし、移行申請に係わる組織体制を整備し、今年度移行申請手続きを行います。

当連合会とセンター及び関係機関等と共に手を携え、シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）の基本理念である「自主・自立、共働・共助」を尊重し、激変する時代に即応した柔軟な企画や事業展開で更なる発展・拡充を目指すこととします。

重点項目

(1) 安全・適正就業推進事業の確立

「安全は全てに優先する」の理念のもと、会員の安全意識の向上に努め、重篤事故撲滅と安全就業の徹底を目指します。

適正就業については法令で定めた「臨時的かつ短期的」または「軽易な業務」への就業を基本とし、公平で適正な就業の実現に努めます。

(2) シルバー事業活性化計画の目標達成に向けた積極的な取組み

センターの発展・拡充を目指し、機会あるごとにシルバー事業の理念と就業のあり方、活動状況等を常に県民に広報・周知し、シルバー事業に対する理解と支援を求めていきます。

(3) 公益認定申請に向けた準備と情報収集、情報提供

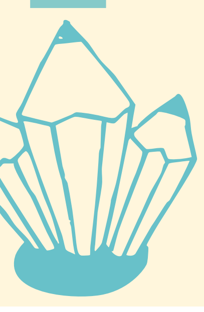
公益社団法人への移行申請に向けた、定款・規程類の改正・整備、全国の申請・認定状況等について情報収集、情報提供を行います。

(4) 就業機会開拓事業の強化

受託事業の受注に加え、シルバー労働者派遣事業や広域需給調整への対応を促進し、就業機会開拓事業の強化に努めることとします。

(5) 第2次中長期計画の策定

福岡県シルバー人材センター連合会第1次中長期計画の期間が平成22年度をもって満了となり、シルバー事業を取り巻く社会情勢が変化してきたことから第2次中長期計画を策定します。



平成22年度 全国シルバー人材センター事業協会定期総会報告

去る、６月22日㈫東京都中野サンプラザにおいて午後１時から開催された。

総会前に予定されていた厚生労働省職業安定局高齢・障害者雇用対策部長 熊谷毅氏の講演「高年齢者雇用対策の現状と課題」（シルバー人材センターへの期待〜）は都合により中止となり、全国各地で展開されている企画提案方式事業のビデオ観賞となった。

定刻に開会し、まず、全シ協の征矢紀臣会長の挨拶があり、次のような要旨であった。

会員増加に対応する新規就業先の開拓。有料職業紹介事業の取り入れ。政府の緊急雇用創出事業の実施。行政刷新会議の事業仕分けの評価結果報告と今後の課題。新公益法人への移行に関する情報提供。全シ協会費規程の改正などについて説明があった。

また、安全・適正就業について、平成21年度の重篤事故は、過去最高の57件となっているので就業の安全対策を最重要課題として取り組むことにしていること。要請文については、関係行政機関及び主な政党に要請したいと考えており、各連合（会）と拠点センターにおいても同じような要請をお願いしたい旨の話があった。

続いて、来賓の厚生労働省職業安定局高齢・障害者雇用対策部 熊谷毅部長の挨拶があった。

総会の議長は社団法人大阪府シルバー人材センター協議会 西野会長が選出され、議長から議事録署名人の指名と定足数の報告による有効に成立宣言後、直ちに議事に入った。

当日の議事案件は、

第１号議案　平成21年度事業報告承認の件
第２号議案　平成21年度決算報告承認の件及び監査報告
第３号議案　平成22年度事業計画承認の件
第４号議案　平成22年度収支予算承認の件
第５号議案　全シ協会費規程改正の件
第６号議案　第15期補欠役員選任の件
第７号議案　総会決議の件

第１号議案から第６号議案については、異議なく原案通り可決した。第７号議案については質疑の後一部修正の上、後日送付することで可決した。

今回の総会に参加して、以前に比べ出席者が少ないことに少々戸惑いシルバー事業の先行きに不安めいたものを感じた。近年、シルバー事業は厳しい視線を浴びるようになった折から中央の組織強化を補うことも必要ではないかと思われる。

そこで、各都道府県連合（会）、各県拠点センターが今まで以上に連携、協力して強固な絆を結ぶべき時ではないか、事業仕分けの評価結果のコメントには、「更なる縮減を検討すべき」と記されており、事業の発展と補助金の確保を目指すのであれば、当然のごとくこのような場所に出席して叱咤激励すべきではと考えるが如何であろうか。

シルバー事業への一般の人々の目が高齢者の就業という観点からではなく、仕事の成果に対して一般の企業が行う仕事の完成と同じような出来栄えを求めるように変わりつつある。このような現状をシルバー人材センターはどのように対応していくのか等、全国から参集するこのような時こそ情報の交換や交流を図り団結を深めるべきではないかと考える。

何はともあれ、世情もシルバー事業も不透明な中、情報の発信源となる中央の組織の再構築がシルバー人材センターに取って重要になってきたのではないかと思えてならない。

平成22年度 安全就業促進大会

平成22年7月15日㈭、大博多ホール（福岡市博多区）において、安全就業促進大会を開催しました。県内41箇所のシルバー人材センターから342名が参加し、安全就業に関する優良センターや安全標語の表彰、事例発表や講演などを通じ、参加者全員が「安全就業」を徹底する決意を新たにしました。

当連合会の安全・適正就業対策委員会の内藤委員長（㈳直方市シルバー人材センター理事長）による開会のあいさつに始まり、生田会長あいさつ、来賓あいさつの後、第一部として、猪口事務局長から安全就業センターの表彰、安全標語入選作の表彰に関する経過報告と表彰を行いました。

安全就業センターの表彰については、全国シルバー人材センター事業協会の設定する標準的な度数率（事故の頻度）、強度率（事故の軽重度）に対し、当連合会で独自の基準を設け、基準値をクリアし、年間を通じて安全就業対策に成果のあったセンターを表彰するものです。今年度は、㈳筑紫野市シルバー人材センター、㈳宗像市シルバー人材センター、㈳新宮町シルバー人材センター、㈳北九州市シルバー人材センター、㈳岡垣町シルバー人材センター、㈳みやこ町シルバー人材センターの計6センターが表彰を受けました。他センターの手本となる安全就業を維持していただきたいと思います。

安全標語については、今回262点の応募があり、当連合会の安全標語審査委員会による審査の結果、下の8点が選ばれました。入賞者の皆さんには、表彰状とともに、記念品が贈られました。

今回は、ミーティングや安全帽、指差し呼称など、具体的な標記の作品が選ばれたのが特徴のようです。

最優秀賞

始業前　相互注意の　ミーティング　㈳直方市ＳＣ　田籠　一雄　様

優秀賞

帰宅まで　脱ぐな心の　安全帽　㈳岡垣町ＳＣ　川上ヨシ子　様

急ぐとも　必ず確認　保護用具　㈳行橋市ＳＣ　永井　崇敬　様

佳作

安全と　健康管理は　自分から　㈳福岡市ＳＣ　永澤　隆　様

慣れた頃　慣れた仕事に　事故が待つ　㈳春日市ＳＣ　斉藤　武文　様

指差呼称　一度といわず　二度三度　㈳苅田町ＳＣ　村田　英彦　様

ちょっと待て　作業前の　ひと呼吸　㈳大牟田市ＳＣ　深見　清一　様

ヘルメット　あごひも締めて　気を締めて　㈳筑前町ＳＣ　鬼塚　義則　様

第二部は、特別報告として、内藤委員長から「最近の事故状況」について、昨年度の事故発生状況と今年度発生した就業途上の転落、就業中の墜落などの重篤事故と、安全・適正就業対策委員会の対応について報告がありました。各センターの、尚一層の安全就業に向けた意識の高揚と取組み強化が望まれます。

事例発表については、㈳北九州市シルバー人材センター安全委員会委員長の塚崎伊佐男氏に発表していただきました。「安全就業への取組み」と題して、平成17年度に基本指針の見直しをし、事故の発生状況の分析、ヒヤリハットの収集やそれを活かした事故防止事例など、スライドを使ってわかりやすく説明されました。各職群班に取組結果のヒヤリングを行い、それを活かしてきたことや、剪定作業の事故がゼロになったことなど取組状況とその結果が示されました。受注件数に比して事故率が減少しているなど、かなりの成果を上げておられるようです。また、何よりも会員自身による「安全意識の向上」が第一であることも強調されました。他センターにも大変参考になった事例発表だと思います。

福岡県警察博多警察署交通総務係の北條豊係長からの交通安全講話では、死亡事故などは総数として減少しているものの、半数近くが65歳以上の高齢者であるデータなどを示されました。私たちも、夜間や明け方の道路通

行には、明るい服装や反射材などの使用に心がけなければなりません。

第二部の講演は、日産自動車九州工場総務部の大石大(おおいし・だい)氏に依頼し「災害ゼロの職場づくり〜正常な状況の維持管理〜」をテーマにご講演いただきました。大石氏は、九州工場4千名の安全指導とともに、海外工場での安全管理指導、また社外からの依頼を受けての安全作業に関する講演活動など、安全に関するスペシャリストです。

まず、安全三原則について、「①業務の標準化、②作業の停止、③標準(基準)の遵守」を挙げられました。「どのような仕事にも業務標準があり、なければ標準化する必要がある。異常が発生した場合には必ず作業を止めて他者を呼び、誰かが来るのを待つ。そして、業務標準を守る(守らせる)こと、また、標準は、状況に応じて見直すことも大切」とのことでした。

KY(危険予知)については、簡単にできることではなく、日頃のKYT(危険予知トレーニング)が効果を発揮するようです。作業する人からの意見やヒヤリハット報告の事例を活かし、ヒヤリハットは安全作業のための「財産」であると考えて、ビデオ学習等でトレーニングを行うことが危険予知につながるそうです。

リーダーや責任者の役割についても話されましたが、「同じ事故は二度と起こさない」というのは責任者の責務であり、そのためには何をすればよいのかを真剣に考えていただきたい、と語気を強められたのが印象的でした。

そのほか、作業に見合った服装、朝礼や作業前ミーティングの大切さや、コミュニケーションが図れている作業現場は事故が少ないということなど、意義深い内容とともに、時折ジョークや諸外国の好ましくない事例なども交えて話された一時間でした。

大会の締めくくりとして、㈳大川市シルバー人材センターの安全就業推進委員会の古賀委員長の力強い安全就業宣言の後、当連合会安全・適正就業対策委員会の大西副委員長(㈳筑紫野市シルバー人材センター理事長)による閉会のあいさつで、盛会のうちに、閉会しました。

平成22年度安全・適正就業対策実施計画

当連合会の安全・適正就業対策推進基本計画に基づき、平成22年度安全・適正就業対策実施計画が策定されました。この計画に基づき、安全・適正就業に向けた具体的な取り組みが行われます。

1 目標:前年度の事故件数を10%以上削減

(1) 剪定および刈払い時による事故撲滅

(2) 交差点での事故撲滅

(3) 身体能力の確認(体力測定の奨励)

2 実施計画

(1) シルバー人材センター(以下「センター」という。)に対する安全・適正就業パトロール(以下「パトロール」という。)の実施について。

過去の事故例により特定の拠点をパトロールする。

(2) 安全就業促進大会(以下「大会」という。)を開催する。

センターの安全委員、班長、リーダーを対象とした大会とし、会員の安全就業の徹底を指導してもらう内容とする。

(3) 安全・適正就業推進員研修会を開催する。

センターの安全・適正就業推進員に安全・適正就業意識を一層高めてもらい会員の安全確保を推進してもらうための研修を行う。

(4) ①センターに対する支援について

センター等が実施する安全・適正就業研修会等に係わる連合会職員及び安全・適正就業対策委員派遣要請について支援する。

②センターの安全・適正就業対策に関する業務について、指導助言等を行う。

③安全・適正就業が優れたセンターに協力を仰ぎ、県下センターの安全・適正就業のレベルアップを図る。

(5) ①事故報告及び事故分析等について

センターから定例事故報告書を求め、状況に応じて対策を講じると共に結果をセンターに通知し注意を喚起する。事故状況によっては現地に赴き再発防止策を協議する。

②重篤事故等重大事故報告書の有効活用のため様式を改定する

また事故報告書の有効活用のため様式を改定する

センターに対し事故を報告し、注意を喚起し再発防止を呼びかける。

(6) 過去に実施したパトロールに基づく指導事項の改善結果を文書により提出してもらう。改善が見られないセンターは別途指導を行う。

(7) 安全就業センターの表彰について

安全就業の推進事業に積極的に取り組み、その功績が顕著であるセンターを検証し、表彰する。

(8) 安全就業指導のため安全就業指導基準書(仮称)を作成する。

(9) 情報の収集及び提供について

ビデオテープ、関係書籍、参考資料等の収拾を図り、情報提供及び貸し出しを行う。

(10) 目標達成のための重点課題の実施について

①剪定および刈払時による事故撲滅については、各センターが定めた「安全心得」および「作業別安全就業基準」を確実に守って作業を行うこと。刈払時の作業間隔の確保および石飛ばし防止には細心の注意を払うこと。

②交差点における事故撲滅については、信号及び通行ルールを守るのは当然ですが、ルールに従った通行をしても事故に遭っています。たとえ青信号でも、また優先道路であっても、相手がルールを無視した通行を行えば事故になることがあります。事故を回避するには、ルールに従った上で自ら安全の最終確認をすることが必要です。

③身体能力の確認については文部科学省の「新体力テスト」を活用するなど、各センター宛てに実施要領をお知らせしています。

平成22年度　シニアワークプログラム技能・介護講習実施計画

【連合会主催】

エリア	開催地	種類	講習名	実施回数	講習日数	受講予定（1回当り）
福岡	宇美町	長期	樹木・緑地管理講習	3	10	25
	福岡市		警備・受付管理講習	1	8	25
	福岡市		パソコン実務講習	4	8	25
	福岡市		販売事務	1	8	25
	福岡市		事務補助講習	3	8	25
	福岡市		建築 CAD	1	8	25
	福岡市		マンション管理員講習	2	8	25
	福岡市		社会保険入門講習	1	8	25
	福岡市		介護事務講習	1	8	25
	福岡市		訪問介護員養成	1	23	25
	福岡市	連合短期	フォークリフト講習	2	5	20
筑豊	飯塚市	長期	パソコン実務講習	1	8	20
	飯塚市		事務補助講習	1	8	20
北九州	北九州市	長期	樹木・緑地管理講習	1	10	25
	北九州市		警備・受付管理講習	1	8	25
	北九州市		パソコン実務講習	2	8	25
	豊前市		パソコン実務講習	1	8	25
	北九州市		事務補助講習	3	8	25
	豊前市		事務補助講習	1	8	25
	北九州市		建築 CAD	1	8	25
	北九州市		マンション管理員講習	1	8	25
県南	久留米市	長期	樹木・緑地管理講習	2	10	25
	久留米市		警備・受付管理講習	1	8	20
	久留米市		パソコン実務講習	1	8	25
	柳川市		パソコン実務講習	1	8	25
	久留米市		事務補助講習	2	8	25
	久留米市	連合短期	緑地管理講習	1	5	20

※日程等については変更になる場合があります。

【シルバー人材センター主催】

エリア	開催地	種類	講習名	実施回数	講習日数	受講予定（1回当り）
福　岡	糸島市	短期	農業支援講習	1	4	20
筑　豊	飯塚市	短期	子育て支援講習	1	4	20
	飯塚市		樹木剪定講習	1	4	20
北九州	北九州市	短期	筆耕講習	1	5	20
	北九州市		子育て支援講習	1	5	20
県　南	うきは市	短期	果樹栽培支援講習	1	5	20
	うきは市	短期	介護補助	1	5	20

シニアワークプログラムとは

厚生労働省の委託をうけ、60歳台前半層を中心とする、高齢求職者を対象として事業主団体等の参画・協力のもと新しい技能・知識を習得する技能・介護講習を実施しています。

●応募資格

○原則として60歳台前半層で仕事をお探しの方
○雇用・就業中の方は応募できません。
○過去１年間に当連合会の各講習会を受講された方を除きます。

●講習期間及び会場はシルバー人材センター連合会、公共職業安定所、最寄りのシルバー人材センターにお問い合わせ下さい。

また当連合会ホームページにも掲載しております（URL/http://fscr.or.jp）。こちらからアクセス、申し込みも出来ます。

シニアワークプログラム修了者数の推移

技能講習（長期、連合短期）修了者

受講者別	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一　般	420	516	690	393	550
SC 会 員	82	101	230	111	145
合　計	502	617	920	504	695

介護講習（長期、連合短期）修了者

受講者別	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一　般	170	109	93	70	38
SC 会 員	37	33	46	28	12
合　計	207	142	139	98	50

シニア就業支援プログラム事業のご案内

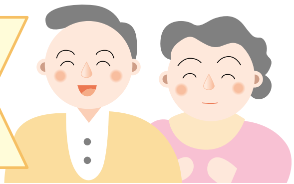
近年、高年齢者の雇用・就業ニーズは多様化しており、社会参加やボランティア、本格的な雇用など様々です。こうしたニーズに対応するため、地域社会に密着した雇用・就業や社会参加の場を広く提供することが必要となってきました。

このため、福岡県における雇用・就業や、社会参加を希望する55歳以上の高年齢者の方々を対象に、幅広い形での就業や社会参加の機会確保・提供などを目的として、厚生労働省から委託を受け、「シニア就業支援プログラム」を実施しています。

この事業は、ご登録いただいた高年齢者の皆様と、企業や団体・地域が求める人材をマッチングして、高年齢者の雇用・就業・社会参加を応援していくものです。

例えば、こんな事業をしています

シニア就業応援セミナー



参加登録をしていただいたのち、シニア就業応援セミナーのご案内をしています。このセミナーは、心理学者の吉原克枝先生を講師に迎え、「人生の振り返り」や「人生の棚卸し」、「新しい生き方の発見」を、グループディスカッションなどを交えて行います。

参加者の方には好評をいただいており、「一呼吸おいて、自分の見直しができた」「今からでも十分仕切り直しができることが分かった」などの感想を寄せていただいています。

セミナーのほかにも、就業体験やボランティア参加などのワークショップ、その他現在新しいメニューを準備中ですので、皆様の参加登録をお待ちしています。

参加登録やセミナー、ワークショップ事業などのお問い合わせは
シニア就業支援係　092－623－5656 まで

センター Center だより

㈳嘉麻・桂川広域シルバー人材センター

企画提案型事業の取組みにあたり

　当センターは、平成18年4月1日、市町合併に伴い、社団法人嘉麻・桂川広域シルバー人材センター「嘉麻市（旧山田市・旧稲築町・旧碓井町・旧嘉穂町）と桂川町」として発足し、平成21年度末現在の会員は522名、事業実績は197,964千円となっております。

　当地域は福岡県の中心部に位置し、福岡・北九州都市圏、筑後、京築、日田地域のいずれからも同等距離にあることから、今後道路整備等の拡充を図ることにより人、物、情報の交流拠点として発展が期待されております。

　このような状況の中で、平成21年度から国の補助金制度が従来の交付方式から「子育て・介護・教育・環境」の4分野からの企画提案方式に変更され、当センターにおいては高齢者の就業機会の確保を図るべく「シルバーにおまかせ」ライフサポート事業として企画提案をした結果、平成21年度から事業採択され実施しているところであります。

　当該事業の企画にあたっては、子育て・介護については既に民間事業所が先行し積極的に運営しており、センター事業として企画するには至りませんでした。そこで、全国の事例集を調査研究し、さらに、旧山田市シルバー人材センター時代の資料を調べていると平成13年度に旧センター敷地内で幼稚園児がサツマイモ掘りをしている写真を1枚見つけました。

　これを手がかりにして、「教育・環境」分野において幼稚園児、小学生に農作物の収穫などを体験させる案をまとめ、具体的な検討に入りました。まず、市の中心部に休耕田を探し、地主に企画内容を説明して借用することが可能になり、農園部会会員の募集、看板の作製、苗の手配等が順調に進める見通しができましたので、行政担当課の合意を得て企画提案に至った次第であります。

シルバーの農園風景

　昨年10月には幼稚園児、小学生63名に収穫体験を実施し、乾燥椎茸4,800グラムを小・中学12校に学校給食の食材に提供することができました。

　さらに、今年度は付加価値をつけるべく、4月に小学校（41名）において椎茸原木（100本）の菌打ち体験学習を実施し収穫までの管理をすることといたしました。

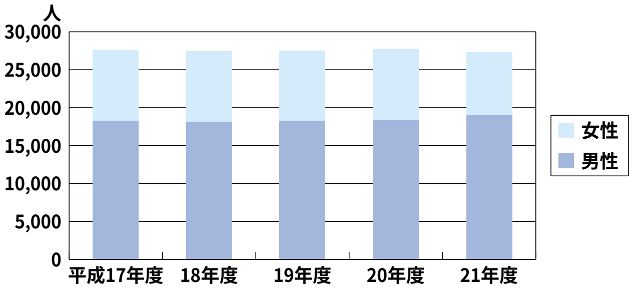
　当初は企画提案型事業にどうやって取組んでよいのか、妙案が浮かばずかなり悩んだりしましたが、たった1枚の写真からヒントを得てアイデアが巡り現在に至っていますが、センター会員の就業機会の確保ならびに地域行政活性の手助けとなれるよう第2、第3回の企画提案型事業達成に向けて努力したいと考えております。

しいたけの菌うち

データで見る平成21年度事業実績

福岡県内の平成21年度の事業実績を取りまとめましたので、主要なデータを５年間の推移を含め紹介します。（伸び率は、平成17年度を基準にしています。）

1．会員数



平成20年度から、わずかながら増加しており、４年ぶりに伸び率を更新しました。

（単位：人）

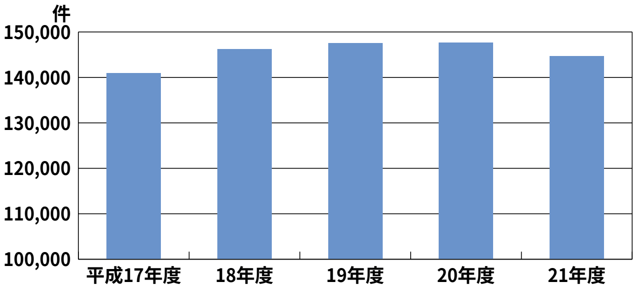
区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
男　性	18,226	18,140	18,184	18,343	18,996
女　性	9,346	9,293	9,336	9,362	9,297
合　計	27,725	27,572	27,433	27,520	28,293
伸 び 率	100.0%	99.4%	98.9%	99.3%	102.0%

2．受注件数

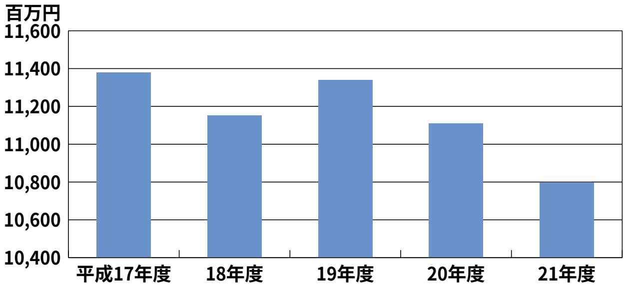
経済情勢の影響を受け、平成19年度をピークに減少傾向にあります。

（単位：件）

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
合　計	140,916	146,199	147,512	147,680	144,743
伸 び 率	100.0%	103.7%	104.7%	104.8%	102.7%



3．契約金額



受注件数同様減少しており、平成21年度は110億円を割り込んでいます。

（単位：百万円）

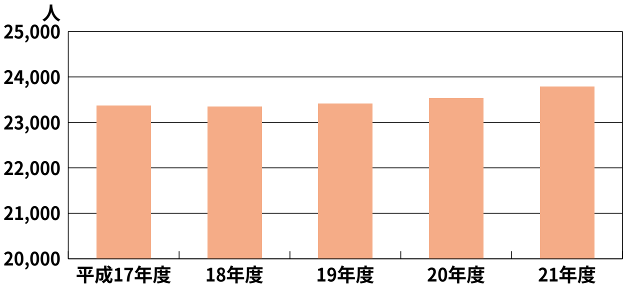
区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
合　計	11,380	11,153	11,339	11,111	10,797
伸 び 率	100.0%	98.0%	99.6%	97.6%	94.9%

4．就業実人員

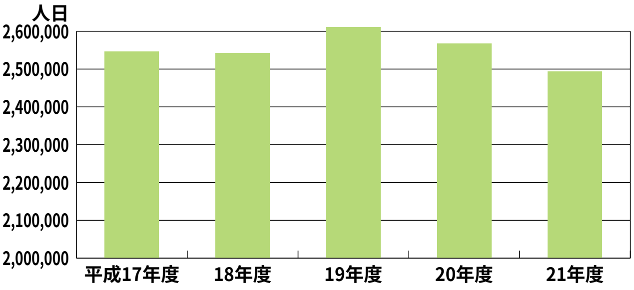
ほぼ毎年上昇を続け、全会員の84.1%に当たる会員の方々が就業しています。

（単位：人）

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
就業実人員	23,372	23,351	23,413	23,538	23,790
伸 び 率	100.0%	99.9%	100.2%	100.7%	101.8%



5．就業延人員



会員１人あたりの就業日数が減っていることを示しますが、ワークシェアリング（仕事の分かち合い）が進んでいると思われるデータです。

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
就業延人員	2,546,357	2,542,021	2,610,901	2,568,121	2,493,706
伸 び 率	100.0%	99.8%	102.5%	100.9%	97.9%

今号の表紙

筑後川花火大会
（久留米市）

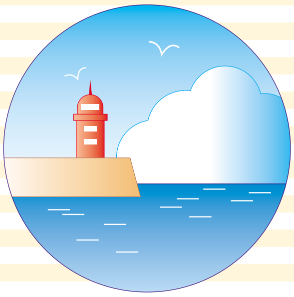
撮影者　尾仲　一頭　氏
直方市頓野在住
写真歴40年、「写真は記録である」の姿勢を終始一貫している。雲仙普賢岳土石流災害の状況や被災住民の姿を撮影した作品が評価され1993年よみうり写真大賞＜報道部門＞を受賞。10年間の作品をまとめた「仮校舎で学んだ子供たち」（2000年、水道産業新聞社）を刊行。

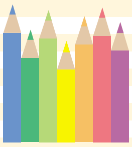
一言コーナー

かつて同僚であった人の出産を知った。
身近な人や知人の出産を聞くのは５年振りである。
加齢とともに外部と接触する機会が減り、情報量が少なくなったのはやむを得ないが、それにしても出産の話を聞くのは絶えて久しいことだ。
少子化の現実を垣間見る思いがした。
国、地方自治体、企業等社会全体で少子化対策に取り組まれている。しかし、その効果が現れる兆しが見えてこない状況にあり、何かにつけて少子化の実態を聞くことが多くなった。
最近、地元自治区会の会議に出席したとき、行政区域内の公立学校通学区域審議会の状況が報告された。児童減少による小学校の統廃合である。児童数が最盛期の４割程度に減少した学校もあり、空き教室の管理、教育現場の安全確保等財政問題を含め学校運営全般について再構築が求められているという。
結論まで相当の紆余曲折があろうが、いずれにしても最も影響を受けるのは児童であり、教育を受けるにふさわしい環境をつくりだすのが大人の責務である。学校教育に限らず、いかなる場合でも子どもたちを温かく包み込み「安心感」を与えなければならない。
さて、幸運にも冒頭の赤ちゃんを抱くことができた。何年振りであろうか。
安らかに微笑む顔を見て幼児期の長男を思い出した。
三十数年前の夏の日、残業帰りにアイスクリームと花火を買って帰宅した。長男はアイスクリームを食べながら笑顔で「お父さんありがとう」と何度も繰り返し、線香花火の光に映えた笑顔が何よりの励みになった。
赤ちゃんを抱いて長年忘れていた大切なものに巡り会った思いがする。
両腕に伝わる柔らかい重みが心地よい。

編集後記

○スクラップがたまったので整理することにした。
新聞の切り抜き、雑誌の一部をコピーしたもの、これに地域情報紙、旅先で入手した地図、パンフレットなどが加わる。これらを自分流に分類してそれぞれファイルしているが、何に使うかと云えばほとんど使うことがない。
たまに文章作成のとき、引用して内容に客観性を持たせ説得力を高めるようにしている程度で、古いものを読み返して感慨を新たにしたり好みの本に出合う手がかりにもしている。いつもは部屋中に散在している有様だ。
この状況をみて家人は「ゴミの山」と云うが私にとっては一枚一枚の紙片に収められた「情報の山」である。いや、正確には「宝の山」といっていい。
先輩のスクラップ談義に触発されて三十年有余、使用頻度は少ないが重宝している。
紙片の山をみると安堵するのは何故だろう。
○第29号お届けします。
本年度の機関誌は３回発行する予定です。情報を極力早期にお届けすることにしています。
皆様のご意見、ご感想をお願いします。





社団法人 福岡県シルバー人材センター連合会
〒812-0046　福岡市博多区吉塚本町９番15号
福岡県中小企業振興センタービル８階
TEL092-623-5656　FAX092-623-5677
（URL）http://www.fscr.or.jp
PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は、揮発性有機化合物を含まないノンＶＯＣ植物性インキを使用しています。